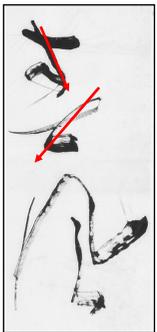




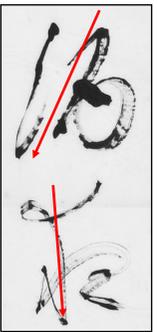
春 風 鳥 帽 花 間 酒 夜  
雨 紅 燈 竹 裏 棊



右下がりの横画から始まっていて、二画目も右下への動きがあり、「春」の上部は左に傾いて右への流れを感じる。下部は逆に右上がりの横画に続いて左下への動きのある画を配して今度は左への流れを感じる。相反する動きを一字の中で表現しているにも拘らず安定感がある。



文字の傾きはそれほどではないが、下膨れの「鳥」と幅広の「帽」、そして尻すぼみの「花」と続き、この三つの文字でひとつの楕円形を構成している。掠れの中にも温かみのある表現が素晴らしい部分だ。



思い切つて右に倒しているかのような「酒」は前の「間」字からの流れを引き継いだものであるが、行末として「夜」はその流れを少し引き戻して終わらせている。特に長い縦画を左寄りに書いていて、細めの線ではあるがしっかりと柱として行全体を支えている。



「間」に続いて二度目の墨継ぎの部分だ。力のこもった書き出しで、早くも掠れが出ている。特に「紅」の傍の部分は力強く厳しい直線になっていて作品全体を引き締められている感だ。



最後に縦長の二文字が続いている。短めの横画が多いので、一つの画はどの部分を書いているのかしっかりと理解しながら書いてほしいところだ。「裏」の字は上部を「重」と書く場合と鍋蓋に

今月の課題は、掠れを中心として懐の広いゆつたりとした筆の流れで表現した作品になっている。力のこもった線というより、ふくやかな暖かい風を感じるような豊かさがあり、決して力づくで生み出したカスレではないことを感じ取ってほしい。細い線もありはするが、全体的に太めの線で表現している。筆も、いつもより大きめのものを使用しているのだろう。ゆつたりとした味わい深い掠れを表現することに努めたい課題だと思う。

るので注意したい。また、もともと縦長の字形なのでその特性を生かした自然な形で収束させるのが良い。